

令和3年度 泉佐野市の財政状況

問合せ 行財政管理課

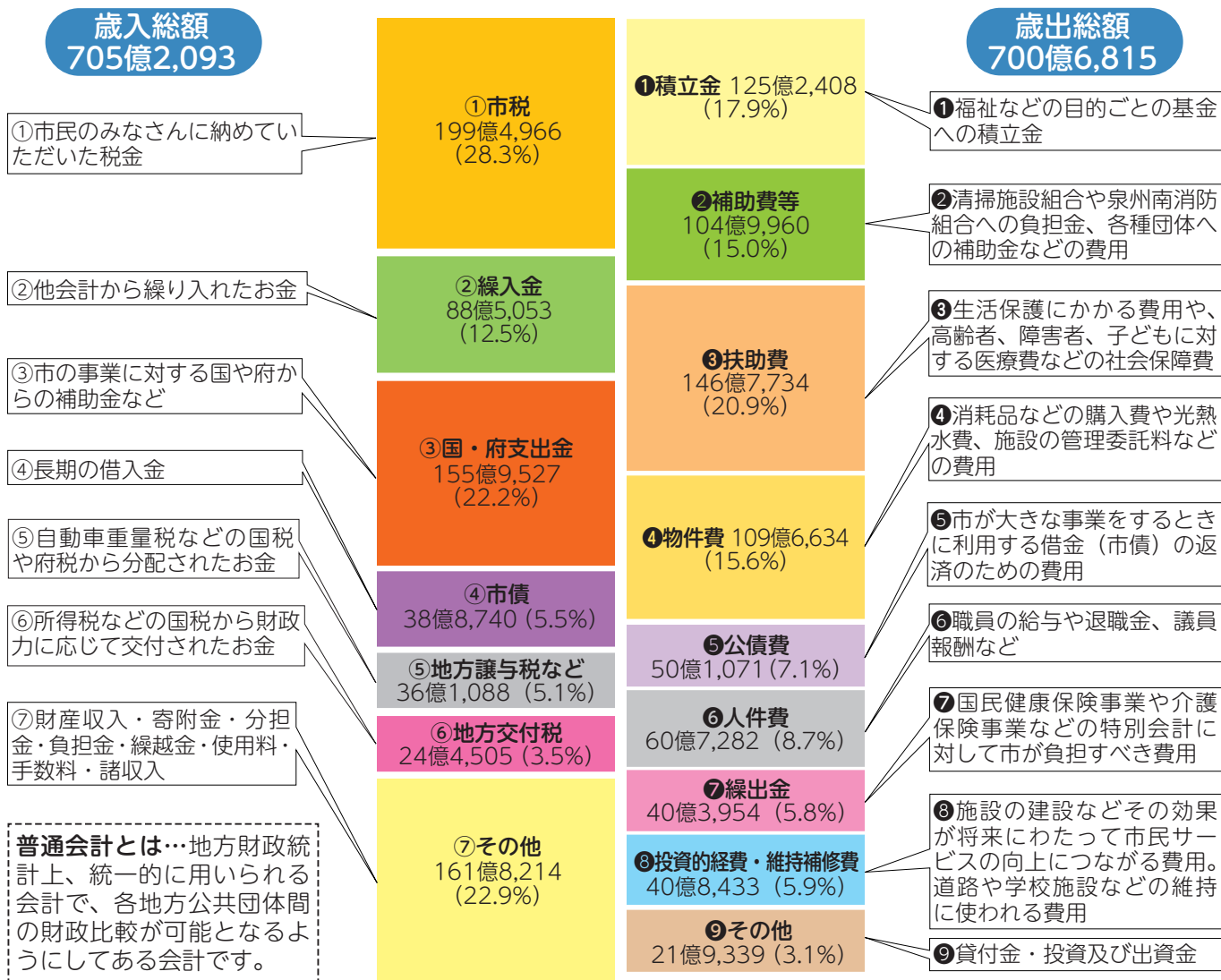


決算の特徴としては、令和元年12月に策定した中期財政運営方針に基づく事務事業の継続した見直しなどによる歳出削減のほか、国や府の新型コロナウイルス感染症対策に関連する財政支援の積極的な活用、遊休土地の積極的な売却、ふるさと応援寄附の推進などの歳入確保に努めたことで、前年度に引き続き約3億8,500万円の黒字となりました。

歳入総額	歳出総額	翌年度繰越財源	実質収支額
705億2,093万円	700億6,815万円	6,778万円	= 3億8,500万円

令和3年度 普通会計の決算

(単位:万円)



市民1人あたりでは…

歳入 715,172円

- 市税 202,315円
- 国庫支出金、府支出金 158,156円
- 市債 39,423円
- その他(繰入金など) 315,278円

- 固定資産税 103,212円
- 市民税 66,981円
- 都市計画税 14,744円
- 市たばこ税 12,349円
- 軽自動車税 2,780円
- 入湯税 85円
- 法定外普通税 2,164円

歳出 710,580円

- 総務費 240,418円
- 民生費 221,556円
- 衛生費 61,443円
- 公債費 50,820円
- 土木費 48,159円
- 教育費 50,995円
- 消防費 13,517円
- 商工費 17,027円
- 議会費 2,722円
- その他(労働費など) 3,923円

安全・安心なまちづくり

- 避難所となる小・中学校屋内運動場への空調機器整備の3年目（3ヵ年計画）を実施
- 最大規模の高潮や洪水を想定した地域防災計画・ハザードマップの見直し
- 新型コロナウイルス感染症予防接種



教育・子育て支援

- 市営プール（りんくう市民プール）の設置
- 新池中学校グラウンドの夜間照明を整備



令和3年度に実施した主要事業

まちの活性化・賑わいの創出

- 泉佐野土丸線の整備
- 新町テニスコートの整備
- 公益活動応援基金を活用した公益活動助成金の創設
- 観光推進のための関空立国デスティネーション化推進事業の実施
- 中心市街地の活性化を目的としたエリアマネジメント活動推進事業の実施
- りんくう野外文化音楽堂の整備



各会計決算（歳出）

（単位：万円）

会計名	令和3年度	令和2年度	比較
一般会計	694億7,001	673億6,180	21億 821
国民健康保険事業特別会計	107億 877	104億4,334	2億6,543
公共用地先行取得事業特別会計	9億7,947	11億1,906	△1億3,959
介護保険事業特別会計	93億1,870	88億6,974	4億4,896
後期高齢者医療事業特別会計	13億1,879	13億 102	1,777
病院事業債管理特別会計	18億7,195	33億6,557	△14億9,362
りんくう公園事業特別会計	2億 131	1億9,575	556
水道事業会計	25億 679	24億7,087	3,592
下水道事業会計	36億8,743	37億5,735	△6,992
合計	1,000億6,322	988億8,450	11億7,872



令和3年度末残高

- 市債（長期借入金）
…619億円
市民1人あたり 627,409円
- 積立金…169億円
市民1人あたり 171,685円

健全化判断比率の状況

実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字により数値はバー表記、実質公債費比率は、9.9%と前年度から2.1ポイントの改善、将来負担比率は42.8%と前年度より40.2ポイント改善し、いずれも早期健全化の基準未満となっています。

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は黒字のため「-」で表示

(単位：%)

健全化判断比率	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	早期健全化 基準
実質赤字比率	-	-	12.12
連結実質赤字比率	-	-	17.12
実質公債費比率	12.0	9.9	25.0
将来負担比率	83.0	42.8	350.0

- ①実質赤字比率…標準財政規模(*)に対する、一般会計等に生じている赤字の大きさの割合
- ②連結実質赤字比率…標準財政規模に対する、水道や下水道など公営企業を含む全会計に生じている赤字の大きさの割合
- ③実質公債費比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金返済額の大きさの割合
- ④将来負担比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金など現在抱えている負債の大きさの割合

(*) 標準財政規模…市の経常的な一般財源の規模を示すもので、標準的な税収入額に普通交付税などを加算した額（令和3年度決算：約245億円）

今後の取組項目

【支出の抑制、効率的な行政運営に関する事項】

- 事務事業の継続した見直し
- 広域連携の推進
- 窓口業務委託をはじめ民間委託の拡充
- 給与水準の適正化などによる総人件費の抑制

【収入の確保に関する事項】

- 滞納処分の強化および徴収率の向上
- 企業誘致等による税収増加
- ふるさと応援寄附金制度、ネーミングライツなどの更なる税外収入の確保

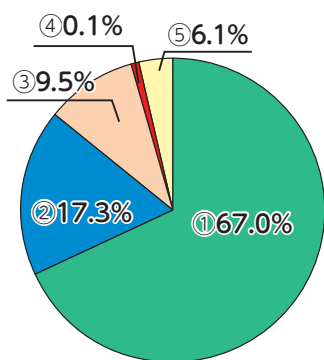
中期財政運営方針期間終了時の目標

- 実質公債費比率は10.0%以下
- 将来負担比率は130%以下
- 地方債残高は標準財政規模の2.5倍以下

国民健康保険事業特別会計

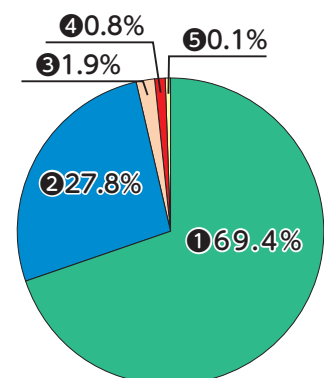
問合せ先 国保年金課

国民健康保険事業特別会計は、歳入113億9,513万円に対して、歳出107億877万円で6億8,636万円の黒字となりました。なお、単年度では829万円の黒字となっています。



歳入 113億9,513万円

科目	金額 (万円)
①府支出金	76億3,031
②保険料	19億7,611
③繰入金	10億7,973
④国庫支出金	1,470
⑤その他	6億9,428



歳出 107億 877万円

科目	金額 (万円)
①保険給付費	74億3,685
②国保健康保険事業費納付金	29億7,920
③総務費	2億 551
④保健事業費	8,136
⑤その他	585

【府内平均を大幅に上回る医療費】

令和2年度の本市における全被保険者1人あたりの医療費は39万9,998円と府内43市町村中13番目に多く、府内平均の38万2,285円を大きく上回っています。

これは、他の市町村に比べ、レセプト1件あたりの診療日数および診療費が多くなっていることが影響しています。

以前から、ジェネリック医薬品の利用促進や柔道整復の適正受診の啓発など医療費適正化の取組を進めていますが、1人あたり医療費は増加し続けており、府内でも引き続き高いレベルにあります。

【病気は未然に防ぎましょう】

本市では市民の健康づくりを推進するため、生活習慣病予防に着目した特定健診・特定保健指導の推進を図っています。

これは内臓脂肪型肥満や糖尿病、高血圧、高脂血症などの危険因子が重なるほど、心疾患や脳血管疾患を発症する危険が増大することから、生活習慣病予防に取り組むこととなったものです。その他、被保険者のみなさんには、人間ドック・脳ドックや泉佐野市役所健診センターで実施している各種検診を利用して、病気の予防、早期発見、早期治療に努めていただき、さらなる健康寿命の延伸や医療費の適正化にご協力をお願いします。

上下水道局会計決算

水道事業会計は、事業収益26億5,153万円（前年度比4.5%増）に対し、事業費用25億679万円（前年度比1.5%増）で、1億4,474万円の純利益が生じました。

【令和3年度主な事業】

泉佐野駅1号および上町高松線に配水管を布設しました。また、俵屋久ノ木線および岨山線などの老朽管の更新工事を行い、安全で良質な水道水の安定供給を図るとともに、ライフライン機能の強化に努めました。

令和3年度決算内訳 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	23億3,565	営業	24億 259
営業外	3億1,141	営業外	1億 148
特別利益	447	特別損失	272
—	—	純利益	1億4,474
合計	26億5,153	合計	26億5,153

水をたいせつに

- 導・送・配水管総延長 469.62km（令和4年3月31日現在）
- 総配水量 1,282.0万³m（年間）
- 企業団水 1,066.8万³m（年間）+自己水215.2万³m
- 1日平均配水量 3万5,125³m
- 1人あたり1日平均配水量 356ℓ
- 給水装置工事や漏水修理の申込は市指定工事業者へ
(<https://www.water.izumisano.osaka.jp/>)

水道事業会計

問合せ先 経営総務課（水道事業）
☎467-2800
Fax467-1801

上下水道局（水道事業）からのお願い

市では、昭和44年4月1日から、鉛管の使用を禁止してきましたが、それ以前に給水装置を設置した建物では、鉛管を使用していることがあります。

この場合、長時間水道を使用しないと、水道管から微量の鉛が溶け出したり、消毒用塩素濃度の低下や赤水が発生する場合があります。

朝一番や長時間留守にした場合は、バケツ1杯程度の水道水を飲み水以外に使用するようにお願いします。

下水道事業会計は、経営基盤の強化や経営の計画性・透明性の向上を図ることを目的に、令和2年4月に地方公営企業法の全部を適用し、「公営企業会計」に移行しました。

下水道事業会計は、事業収益41億4,657万円に対し、事業費用36億8,743万円で、4億5,914万円の純利益が生じました。

【令和3年度主な事業】

管渠整備事業として、市内14工区で下水道管渠布設工事を実施し、汚水整備の推進と浸水対策として雨水整備を実施するとともに雨水ポンプ場の機能保全を図るため、中央ポンプ場において耐震化にも考慮した年次的な長寿命化対策工事を実施しました。

令和3年度決算内訳 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	25億4,573	営業	32億9,551
営業外	15億4,269	営業外	3億8,887
特別利益	5,815	特別損失	305
—	—	純利益	4億5,914
合計	41億4,657	合計	41億4,657

業務量

- 下水道普及率 42.6%（令和4年3月31日現在）
- 水洗化率 90.6%（令和3年3月31日現在）
- 有収水量 7,423,620³m
- 下水道管渠布設総延長 281,077m（令和4年3月31日現在）

下水道事業会計

問合せ先 経営総務課（下水道事業）
☎450-2222
Fax450-2223

上下水道局（下水道事業）からのお願い

快適で衛生的な生活環境を守るため、汚水の管渠整備を進め、普及率の向上に努めています。

下水道は、私たちの暮らしから排出される汚水をきれいに処理して川や海に戻すことで美しい自然を守っています。

しかし、その効果を発揮するためには、私たち一人ひとりの理解や協力が欠かせません。下水道が整備され、使用できるようになった区域にお住いの人は、下水道への早期接続をお願いします。